２０２４年度 早稲田大学大学院教育学研究科
博士後期課程　　国費外国人留学生入学試験問題
［ 小論文 ］　　【教科教育学専攻（国語科）】

解答上の注意

１．解答用紙の所定欄に、受験番号・氏名・研究指導名・指導教員名を必ず記入すること。

２．解答用紙が複数枚配付された場合、ホッチキスははずさないこと。また、無解答の解答用紙でも提出すること。

３．問題用紙は「**３枚**」（本ページ含む）、解答用紙は「１枚」です。必ず枚数を確認すること。

以　上

二〇二四年度

早稲田大学大学院教育学研究科博士後期課程入学試験問題

［国費外国人留学生試験］

科目名　小論文　国語科内容学（内山）

次の文は、揖斐高著『江戸漢詩の情景――風雅と日常』（岩波新書、二〇二二年八月）の中の一節である。この文を読み、後の問いに答えよ。

石川丈山が洛北一乗寺村に凹凸窠を開いて隠逸生活を始めたのは、五十九歳の寛永十八年（一六四一）春のことだった。丈山はその敷地内に方九尺の小さな建物を営み、中国の三十六人の詩仙の図像と詩を掲げた。これが今も京都の観光名所として人気のある詩仙堂の始まりである。豊臣秀吉の甥で歌人の木下長嘯子が、その頃すでに京都東山霊山の山荘に三十六歌仙を祀る歌仙堂を建てており、おそらく丈山はそれを意識して詩仙堂の建設を思い立ったのであろう。

そこで詩仙三十六人に誰を選ぶかを思案した丈山は、寛永十九年春、その初案を林羅山に送って意見を求めた（『羅山先生文集』巻七「石川丈山に示す」第三書）。当時、羅山は三代将軍徳川家光に仕えて江戸に住んでいたが、羅山と丈山とは天正十一年（一五八三）生まれの同い年で、古くからの友人同士だった。住む所は離れていても書簡のやり取りはしており、書簡を介して二人は詩を唱和したり、羅山が丈山の詩を批評したりするような仲であった（『羅山先生文集』巻六「石川丈山に示す」第十八書、『新編覆醬続集』巻十「林羅山に与ふ」第三書）。

羅山に伝えた丈山の詩仙選定案は、そのままの形では残ってない。ただ、それへの返簡と思われる「石川丈山に示す」第三書の羅山の文章からすると、三十六人の詩仙の名前は左右で対偶する形を取っていた。しかし、その一部について丈山は迷うところがあり、何人かの候補を挙げて羅山の意見を徴したのではないかと推測される。

丈山案のかなりの部分について羅山は賛意を示したが、一部については削除を進言したり、別の詩人の追加を提案したりもした。「石川丈山に示す」第三書において羅山が示した補正案の概要は、箇条書き風にすると次のようなものであった。

（1）あなたは陶潛と謝霊運を対にして配置しているが、両者は詩の優劣も人品も甚だ異なっているので、蘇武と陶潛を対にし、鮑照と謝霊運を対にしたほうがよい。謝霊運を入れるならば謝朓を入れる必要はない。もし謝朓を入れるならば、謝恵連を入れないわけにはいかないであろう。

（2）沈佺期と宋之問は「六朝の流麗」を免れない詩人であり、沈・宋の佳句と称されるものは劉希夷の詩句に拠るものであるから、沈佺期と宋之問はは除くべきであり、もしこの両人を入れるなら劉希夷も入れるべきである。

……中略……

（6）白居易の詩は俗だと評されているので、白居易を入れるならば元稹も棄てがたいと迷っているようだが、両人の詩を同一視することはできない。その人間性において、白居易は「通達」であるのに、元稹が「讒邪」であることを考えれば、白居易は入れるべきだが、元稹は除くべきである。白居易は劉禹錫と対にすべきである。

（7）盧仝を李賀と対にするのは、それぞれ「奇奇怪怪」と「牛鬼邪神」を好み、その詩体が似ているからである。

……中略……

（9）魏野と林逋を対にして入れたいと考え、梅堯臣には対になる詩人がいないのを悩んでいるようだが、魏野は「真隠」ではないので林逋の対にすべきではなく、林逋の対には「儒中の韻士」である邵雍を配すべきである。また梅堯臣の対には蘇舜欽を置くべきである。

（10）欧陽脩を取らないというのはどういうことであろうか。欧陽脩は蘇軾と同じで文名が詩名を覆ってはいるが、その詩は高く評価されているので棄てるべきではなく、もし欧陽脩を除くならば蘇軾も除くということになる。蘇軾を入れるなら欧陽脩も入れるべきである。

（11）王安石を取らないというのはどういうことであろうか。王安石の詩は欧陽脩・蘇軾以上である。それを取らないというのは、王安石の人間性が「執拗暴戾」だからということであろ

二〇二四年度

早稲田大学大学院教育学研究科博士後期課程入学試験問題

〔国費外国人留学生試験〕

科目名　小論文　国語科内容学（内山）

うか。しかし、孔子は「君子は人を以て言を廃てず」と言われた。詩仙を選ぶというなら、王安石を入れて、蘇軾と対にすべきである。

……中略……

(13) 杜甫以後、黄庭堅・陳師道・陳与義は「詩家の正法」と呼ばれている。したがって、陳師道と黄庭堅を対にして、曾幾と陳与義を対にして入れるべきである。

……中略……

三十六人の詩仙をめぐる書簡の応酬を経て、丈山は次のような最終案を決定した。

表

	左	右
1	蘇武	陶潛
2	謝靈運	鮑照
3	杜審言	陳子昂
4	李白	杜甫
5	王維	孟浩然
6	高適	岑参
7	儲光羲	王昌齢
8	韋応物	劉長卿
9	韓愈	柳宗元
10	劉禹錫	白居易
11	李賀	盧仝
12	杜牧	李商隱
13	寒山	靈徹
14	林逋	邵雍
15	梅堯臣	蘇舜欽
16	欧陽脩	蘇軾
17	黄庭堅	陳師道
18	陳与義	曾幾

設問

〔問一〕箇条書きの (11) では、王安石の詩に対する林羅山の考えが示されている。そして、右の表に明らかなように、石川丈山は林羅山の意見に従わなかった。その理由は「執拗暴戻」に他ならない。では、王安石の人となりの「執拗暴戻」とは、具体的にはどのような事柄を指しているのか、あなたの知るところを記しなさい。

〔問二〕引用した (1) ～ (13) 計八つの箇条書きのうち、(11) を除く七つの中から一つを選び、そこで採り上げられた詩人について適宜内容を補いながら、羅山の説が妥当であるか否かについて論じなさい。

〔問三〕右の表に列記された18組の中、二組を選び、詩人ならびにその詩風について具体的に示した上で、自由に論じなさい。

以上

研究指導 教員名（　　）	
受験番号	
氏　名	

二〇二四年度 早稲田大学大学院教育学研究科
博士後期課程 入学試験解答用紙 国費留学生
科目名 小論文【国語科内容学（内山）】

大学記入欄

←

裏面に続く ←

↓ 裏面を使用する場合にここから記入すること ↓

↑ ここまで ↑